

編集後記・Editorials

魚類学雑誌 67(2):317-317
2020年11月5日発行

魚類学雑誌 67 巻 2 号をお届けします。世界中が未知のウイルスによる甚大な影響を受け、人々の生活も一変してしまいました。大学に籍をおく身としての懸念事項は学生の研究活動への影響です。移動が必須となるフィールド調査や標本調査を中止・延期とする話があちこちから聞こえてきます。進学を諦めたり、中退を選択したりする学生も増えているようです。彼・彼女らの未来のためにも、一刻も早い事態の好転を切に願います。このような状況下です。長崎での年会は中止となってしまいましたが、代替研究集会として、ウェブ年会が10月31日から11月1日の期間で開催されることになりました。皆様のお手元に本誌が届く頃には無事(?)に閉会していることと思います。ウェブ年会の実施にあたっては大会長の篠原現人氏(国立科学博物館)と実行委員長の渡辺勝敏氏(京都大学)のご尽力に加え、「若手の会」の皆様の強力なサポートがあり、計画・実施される運びとなりました。混乱が続く中、学生会員の発表の場を設けていただけましたこと、大学関係者としてこの場をお借りして感謝申し上げます。

今号は原著論文が6編、記録・調査報告が10編となり、ますますボリュームのある冊子体となりました。多くの和文学会誌

が掲載論文不足に苦慮していることを踏まえると、魚類学雑誌の好況は大変うれしい状況となっています。一方、印刷費の増加、編集委員の負担増加、校閲者不足など、新たな問題も出てきています。「好況」の継続のためにも編集委員会と理事会が一丸となって対応策を練っていききたいと思います。

67巻の編集にあたり、下記の方々へ原稿の校閲でご尽力いただきました。ここに記してお礼いたします(敬称略)。

秋山信彦, 安房田智司, 土居内 龍(2), 遠藤広光(3), 藤岡康弘, 福井 篤, 萩原清司, 長谷川 功, 橋口康之, 井口恵一郎, 今村 央, 甲斐嘉晃, 鹿野雄一, 片山英里(2), 河合俊郎, 亀甲武志, 木村克也, 木村清志, 小枝圭太, 小泉逸郎, 小北智之(10), 栗岩 薫, 松原 創, 松沼瑞樹(3), 源 利文, 諸澤崇裕, 本村浩之, 村崎謙太, 武藤文人, 武藤望生(3), 内藤大河, 中野 蘭, 中山直英, 西尾正輝, 尾田昌紀, 岡本 誠(2), 佐橋玄記, 齊藤憲治, 猿渡敏郎, 瀬能 宏(3), 渋川浩一, 曾我部 篤, 鈴木寿之, 高見宗広, 竹垣 毅, 武島弘彦, 谷口義則(2), 田城文人(11), 田和篤史, 富永浩史, 富山晋一(2), 坪井潤一, 鶴岡 理, 上原一彦, 渡辺勝敏(2), 山中智之, 吉郷英範

(田城文人)